

An assesment of the preference for the shared decision-making model and patient satisfaction in a diabetic patients' group

著者	岩瀬 俊郎
著者別表示	Iwase Toshiro
journal or publication title	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 (保健学専攻)
volume	平成20年4月
page range	5
year	2008-04-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/19504


博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1942 号

学籍番号

氏 名 岩瀬 俊郎

論文審査員

主 査 (職名) 城戸 照彦 (教授) 

副 査 (職名) 関 秀俊 (教授) 

副 査 (職名) 塚崎 恵子 (教授) 

論文題名 An assessment of the preference for the shared decision-making model and patient satisfaction in a diabetic patients' group

(糖尿病患者会における意思決定の共有過程の選好と患者満足度の評価)

論文審査結果

糖尿病のケアプロセスには構造、過程、アウトカムの3段階がある。具体的に述べると、医師と患者が出会い(構造)、外来における診察とコミュニケーションを行い(過程)、HbA_{1c}の測定を行なう(アウトカム)、結果が悪い時には次回外来において患者教育を行う(フィードバック)、さらに状況が悪いときには、外来にて教育入院の意思決定を行う(過程)とのプロセスである。

共有過程モデルは、意思決定の全過程に医師、患者がともにかかわることがその特徴である。このモデルがパターナリスティックモデルと比べてアウトカムを改善したとの報告はあるが、共有過程モデルの選好を促す要因についての研究はあまりない。また、患者の臨床プロセスへの参加には大きくセルフヘルプと患者グループがある。その数は近年増加しているが、その活動は必ずしも十分に効果を発揮しているとは言えない現状がある。

本研究の目的は、糖尿病患者会における意思決定の共有過程についての選好と患者満足度を評価することである。その仮説は、第一に、患者会への患者参加が意思決定過程において共有過程モデルの選好と関連があること、第二に、患者満足度と関連があることである。

対象は日本人の2型糖尿病患者150人で、うち72人が患者会に入会しており、対照は外来通院中の78人である。意思決定の選好と患者満足度に関しては質問票調査によった。

ロジスティック重回帰分析を用いた結果は、患者会への入会は、意思決定の共有過程の選好と有意に関連していた(OR 2.54; 95%CI 1.07-6.42)。他に、年齢(OR 1.08; 1.02-1.14)、治療(OR 3.76; 1.99-7.70)と有意な関連性がみられた。満足度評価では、両群間に有意差は認められなかった。

故に、患者会活動の促進は意思決定の共有過程の選好の強化につながる可能性がある。

審査では、研究目的や概念図に関して、より深い質疑が交わされ、対照群のより厳密な設定を指摘されたが、本患者対照研究は患者情報に限定され、HbA_{1c}等の臨床検査成績の完全入手は困難である等の研究限界があった。しかしながら、医療経済的視点から、患者会組織のような社会資源の有効活用が今後さらに希求される状況下において、本研究は、先駆的、且つ希少な研究であり、保健学が包括すべき研究領域としても相応しく、よって、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。